



## LUI「公募研究 A」成果報告書

研究課題（和文）：古文辞派の修辞と交流  
研究課題（英文）：Rhetoric and Communication of the Edo Guwenci School  
申請者名・所属先：高山 大毅・総合文化研究科地域文化研究専攻

海外招聘者名：なし

### 1. 研究の目的

本研究は、徂徠学派を中心とする古文辞派の詩に関して、表現論の観点から個々の詩人の作風の相違を明らかにすることと、彼らの表現技法と交流のあり方について詳細な検討を加えることを目的とした。

### 2. 研究開始当初の背景

近世日本の古文辞派の詩は、千篇一律と評価されることが多く、個々の詩人の作風の相違に関する研究は稀であった。申請者は、古文辞派の詩の縁語掛詞的な表現や、人名・地名にちなんだ表現の研究を進めていたため、その成果を土台とすることで、各詩人の作風の差異を明らかにできる手ごたえを得ていた。

### 3. 研究の方法

個々の詩人の作風の相違に関しては、古文辞派の一部の詩人のみが用いる特異な典拠表現を検討することにした。表現技法と交流の関係については、定型的表現の確立と継承が古文辞派の交流の紐帯となっていたことに注目した。定型表現の共有を陳腐であると斥けた性霊派は、古文辞派と異なる交流の型を模索したと推測され、性霊派との比較を念頭に置きながら分析を進めた。また、『国朝七子詩集』（『明七才詩集』）と『絶句解』を学生アルバイトに入力してもらい、表現の影響関係の検出を容易にした。

### 4. 研究成果

古文辞派の詩人の作風の相違については、高野蘭亭が「明月珠」と「連城璧」の二つの典故を連結させる表現をしばしば用いており、

これは服部南郭などには見られない特色であることが明らかになった。「明月珠」と「連城璧」を連結した表現は、徂徠が蘭亭を「明月珠」と「連城璧」になぞられた詩に一つの淵源がある。このように古文辞派の詩人は、自己の経歴などから特有的の典拠表現に強い愛着を持ち、その典拠表現とともに人々に記憶されることが蘭亭の例から浮かび上がった。これについては「明月璧」と高野蘭亭（『日本中国学会』第72号）で発表した。

徂徠学派の表現技法と交流の関係については、近江国の鏡山を「石鏡」と称する表現に注目して分析を行った。鏡山＝石鏡という呼称は、『古今和歌集』所収の歌と李攀龍の詩の趣向上の類似に立脚して徂徠が始めたものである。この呼称は、徂徠学派の詩人によって継承され、さらに他の典拠と結びつけられるといった展開が見られる。興味深いことに、反徂徠学の立場であると見られる学者・文人の諸作にも、この呼称が用いられていることがあり、学派という括りでは見えづらい、表現の普及・浸透の過程が見て取れる。これについては「定型表現の創出：徂徠学派の漢詩をめぐって」（HMC第28回オープンセミナー）で報告した。

上記のような研究から、徂徠学派の詩を考える上で、命名者としての徂徠の存在の重要性に思い至ることになった。蘭亭の例に見られるような、ある人間を特定の典拠と結びつける表現も、広い意味での〈名づけ〉に含めることもできよう。徂徠の命名が徂徠学派だけでなく広く受け入れられた土台には、徂徠によって、経学・詩文の歴史に画期がもたらされたという「物語」がある。性霊派は、徂徠学派のような強力が「物語」を持たない一方で、詩話などの批評的営為によって詩の評価基準を闡明にしていっていったことが分かった。命名の問題については「徂徠学派の文学と〈名づけ〉」（HMC第39回オープンセミナー）で発表した。

### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕

「明月璧」と高野蘭亭（『日本中国学会』第72号、2020年10月）